

2月千葉県議会 予算委員会

予算委員会が3月4日～6日に開かれ、加藤英雄県議が質疑にたちました。



県立高校 人権無視の「黒染め頭髪指導」校則の見直しを迫る

髪が黒でも、茶髪でも、くせ毛でも、天然パーマでも問題ない。生徒一人ひとり、違いをもった個人として尊重される。

2022年度、頭髪の「黒染め指導」を行なった全日制高校は71校で2114人。そのうち黒スプレーによる指導は21校です。また、いわゆる「地毛証明書」は56高校で提出させています。県弁護士会も2020年に「黒スプレーをかける指導は体罰に準じる。行なうべきでない」と断罪し、県教委に対して「警告」しています。

加藤県議は「(頭髪指導) 黒い髪、ストレートヘア・直毛が前提になっている」と厳しく指摘。県教委に「生来の黒でない場合は黒染め等は求めない」「校長等に男女で異なる規制が適切かどうか、説明できない校則の内容は見直しを指示」と答えさせました。

私立高校 負担軽減へさらなる支援を 経常費助成県単上乘せ、施設整備費への補助を求める

2024年度の県内私立高校の1年生が納める初年度納付金は、平均77万4500円。授業料のほかに全国で5番目に高い施設整備費(年平均22万8000円)の負担が求められます。県は、学校を支援する経常費助成の県単独上乘せを据え置き、23年度と同額の高校生一人あたり2万9500円のままで。保護者の負担軽減になる施設整備費の補助制度はありません。

加藤県議は「初年度納付金は1.5%増額し、保護者は負担増だ。補正を検討し経常費助成を増額すべき」と主張しました。高校、幼稚園合わせ約10万人分2億円程度必要です。県は「経済情勢や他県の状況などを勘案し総合的に判断」との答えに留まりました。

加藤県議は施設整備費の補助について「全国で15道府県で実施している。東京都は新年度から授業料減免制度の所得制限を撤廃。県もまずは一年次の施設整備費の負担軽減にふみだす」よう提案。しかし県は「限られた財源の中でどのような制度がふさわしいのか、研究する」と消極的な姿勢を示しました。

加藤県議は「授業料や施設整備費の負担軽減は、社会の流れ。お金がなくても高校に通える千葉県を」と強調しました。



↑動画
県立高校の頭髪指導



↑動画
私立高校の負担軽減



加藤 英雄
(柏市)
総務防災常任委員



丸山 慎一
(船橋市)
県土整備常任委員



みわ 由美
(松戸市)
健康福祉常任委員



浅野ふみ子
(市川市)
文教常任委員

